

結果より途中の見届けを

本校の運動会を5月23日（土）に開催しましたところ、多数の保護者の方にご来校、ご参観いただきまして、誠にありがとうございました。当日は、曇天で熱中症の心配が必要のないくらいの涼しい気候でした。ある保護者の方にお話をお聞きしましたら、「運動会はよかったです。子どもが運動会を楽しんでいる姿を見て、親も楽しい気持ちになりました。お弁当なしの午前開催がいいです。」とのことでした。

令和の時代、地球温暖化が一層進み、気温が高い時期は年間を通じて多くなりました。それに伴う熱中症、子どもたちの体力低下、保護者の負担の増加など、運動会の運営に関わる心配事は年々増加しています。時折、「運動会を昭和の時代のように、一日開催に戻したらどうか」とのご意見を伺うこともあります。1日中屋外で過ごしたことのない子どもたちにとって、外で過ごすことの疲れは相当なものです。子どもたちの安全を第一に、運動会を計画、実施したいと考えています。



運動会の映像や写真をもう一度見直してみると、子どもたちの素敵な表情に溢れていました。リレーで真剣に走って、次の走者にバトンを必死で渡そうとする表情、バトンを渡してホッとして気が緩んだ表情、仲間と肩を組んで必死に前を向いて走るとき表情、どの映像や写真からも、子どもたちが一生懸命に取り組んでいたことが伝わってきます。やっぱり、運動会っ

ていいなと感じました。

「優勝は、〇〇団です」、「1位は〇〇団です」結果をつけなくてはいけないときがあります。優勝だったからよかったのでしょうか。1位だからよかったのでしょうか。結果で運動会の成果をみる考え方もありますが、準優勝、2位、3位だからダメなのでしょうか。私達は、結果ばかりを追いかけているのではないかと感じる時があります。結果の途中、途中の評価が見直されなければいけないと感じる時があります。「一生懸命声を枯らして応援した」「前の走者を追い抜こうと思って全力で走ったけど、追いつかなかった」など、こうした姿は子どもたちの本来の姿です。ここに子どもたちの、その子なりのよさがあると思っています。こうした考え方から、本校では学期の途中（7月と12月）に懇談を行うこととしています。

6月は、台風、大雨など雨が降ることが多い時期となります。傘をさすことから登下校時の交通安全指導にもさらに力を入れます。晴天時には気温が上がり、熱中症対策も欠かせません。お子さんの健康管理には十分にご注意ください。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 花村伸二